

## 編集後記

暉峻淑子氏は著書『対話する社会へ』で、「戦争・暴力の反対は平和でなく対話である」と語った。対話は最も人間らしいコミュニケーション手段であり、人格を自己開放させ、対等で相互的な関係を結び、たとい考えが異なっても人間としての共通性を感じることができるという。そして相手の価値と尊厳を認め、尊重しあい、ともに生きることができるという。対話によりともに答えを見出す創造的な関係を築く。それがグローバル時代に求められるシティズンシップ教育であろう。Barnett は高等機関である大学に学ぶ者は、クリティカルな視点を持って知識、自己、世界を見つめ、よりよい世界を実現する使命を持った者であるという。今回のフォーラムでは、講演・発表により知識を得、討論・対話により自己を見つめ、ともに国際イベントを作り上げることで世界をよりよいものとする行動力を育むことができた。このような対話の機会が世界に拡大し、対立や戦争を克服し、平和な世界が実現することを願ってやまない。

(森山：閉講式の挨拶より)



### 第8回国際学生フォーラム報告書

発行日 2019年3月29日発行

発行 お茶の水女子大学国際教育センター・グローバル文化学環  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

編集 森山 新

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 文教1号館 101-4

E-mail moriyama.shin@ocha.ac.jp